

# 序

私が大学に勤務していた頃、研修医にアトピー性皮膚炎の臨床像を教えるための写真集がなく、不便に思っていました。当時も現在も、教科書や専門書に掲載されている写真は代表的な臨床写真数枚のみで、アトピー性皮膚炎の発疹を学ぶには全く不十分と感じています。そのため、他の出版企画でお世話になった羊土社の編集の方にアトラス作りを提案したところ、賛同して頂くとともに、皮膚科を勉強する研修医に限らず全ての診療科の医師に役立つ本が作れるのではとのアイデアを頂きました。それを受けて、一般医、看護師、医学生などにも参考になる内容を意識して執筆しました。

張り切って書き始めましたが、その後、筆が止まってしまうことが何度もありました。その理由は、皮膚科医がよく目にするいくつかの臨床像にコンセンサスのある表現が存在せず、症状に新しく名称をつける必要があることでした。これは難しい作業で、何人かの先生方にご意見をいただき、できるだけ既存の症状名を用いるように試みましたが、それでも数カ所で独自の表現を考える必要が生じました。これを読まれた皮膚科専門医の先生方には、より適切な表現についてアドバイスを頂ければ嬉しく思います。

なおアトピー性皮膚炎の治療は複雑でまた日々進歩しているため、本書では治療については少ししか触れていません。これについては他の書物や論文を参考にしたいと思っています。

執筆の間に研究留学や転勤があり、いつしか9年の歳月が経ってしまいました。現在、研修医にアトピー性皮膚炎を教える機会はありませんが、この本が必ず誰かの役に立つと信じています。書物の完成を非常に根気よく待っていただいた羊土社の方々には、この場を借りて感謝すると共に、私の遅筆をお詫び申し上げます。

最後に、私の執筆をいつも支え励ましてくれた家族に感謝します。

2020年3月

東京にて

出来尾 格